

平成25年度 岡山大安寺中等教育学校 学校評価書・別紙(最終)

項目番号	学校経営重点目標	具体的方策	担当部署	評価指標・評価基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		関係者評価
					達成状況	評価	達成状況	評価	
1	各期にふさわしい学習習慣、生活態度の確立。	学校生活にふさわしい落ち着いた色合いの持ち物(服装)を使用させる。	生徒課	持ち物(服装)の色合い等で指導の必要な生徒がいないようにする。 A：大半の生徒ができる。B：多くの生徒ができるが、指導の必要な生徒がある程度いる。C：指導の必要な生徒が目につく。 昨年度評価 B	おおむね良好であるが、一部の生徒のバッグや履き物で華美なものがある。「自己判断できる生徒」の育成のために継続的な指導が必要。	B	継続して指導に当たっている。徐々に改善は見られるが、一部に未だ指導の必要な生徒がいる。(ソックス・カバンなど)	B	B
		相談により、学校生活への適応を図る。	教育相談室	担任による相談を定期的実施する。 A：年間4回以上。B：年間3回以上。C：Bに満たない。 昨年度 3回実施	担任による当初面談・夏期保護者面談で2回は実施済み。9月・10月で3回目を実施する。	B	9月・10月で3回目を実施し、12月保護者面談で4回目を実施した。面接の回数の保障は各学年の相談係＝担任と学年団の努力で毎年達成できている。教育相談室は次年度からは「心の教育の充実」に資する活動に軸足を置いて活動していきたい。	A	
		週末課題や長期休業中の課題の提出率をアップさせる。	進路指導課	課題の完全提出を目指す。課題の提出率をA：95%以上、B：90%以上、C：Bに満たない。 昨年度評価 A (未提出数名のみ)	提出率については全体として取りまとめていないが、各学年で積極的に取り組んでいる。	B	1年から4年までの、課題提出率の平均はおおよそ、91%であった。学年ごとに結果を検証して、改善の方策を検討したい。	B	
		家庭学習時間を確保させる。	進路指導課	1・2年平日2時間、休日4時間 3・4年平日3時間、休日5時間の学習時間の達成 A：達成率80%以上、B：達成率60%以上80%未満、C：Bに満たない。 昨年度 学習実態調査での達成者 55%	5月には、 1・2年平日休日平均約3時間 3・4年平日休日平均約3.1時間の学習時間の達成であった。	B	年間の達成率は、1・2年は61.3%、3・4年は46.5%と、量的な評価ではCである。しかし、学習時間は、高い目標設定により、生徒の意欲を促すという質的な目的がある。質的な意味ではかなり評価して良いと思われる。	C	
		校内美化を推進する。	厚生課	清掃時間は教師と生徒が責任を持って担当の清掃にあたる。学校評価アンケートの達成率がA：90%以上。B：70%以上。C：70%未満。 昨年度 アンケート結果 生徒82%、教師92%	行事や考査の関係で簡易清掃となることがあったが、よく取り組んでいる。11月に学校評価アンケートを実施予定である。		学校評価アンケートの結果、生徒の82%・教員の97%がよく取り組んでいると評価をしている。また、保護者の87%が清掃が行き届いていると評価している。	B	

平成25年度 岡山大安寺中等教育学校 学校評価書・別紙(最終)

項目番号	学校経営重点目標	具体的方策	担当部署	評価指標・評価基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		関係者評価
					達成状況	評価	達成状況	評価	
		健康の保持に努める。	厚生課	①う歯治療率90% ②眼疾患治療率(視力を除く)70% 評価A:①②の両方達成 B:①②のいずれか達成 C:評価Bを下回る 昨年度 ①84%, ②62%	(9月30日現在) ①う歯治療率は,55.8%である。 ②眼疾患治療率(視力を除く)は,58.1%である。	C	(2月13日現在) ①う歯治療率は,73.3%である。 ②眼疾患治療率(視力を除く)は,86.1%である。	B	
		読書習慣のついていない生徒に読書習慣を付けさせる。	図書課	読書習慣のついていない生徒を減らす。A:年間貸出冊数が10冊以下の者が30%以下。B:年間貸出冊数が10冊以下の者が50%以下。C:Bに満たない。 昨年度 56%	67.8%の生徒が貸出数10冊以下である。3,4年は図書貸出冊数そのものが少ないため,図書館利用を勧める具体的な手立てが必要である。	C	59.7%の生徒が10冊以下であった。図書館の総貸出冊数は増えており,今後学年に応じた細かい目標設定や指導を工夫していく必要がある。	C	
2	自己有用感や社会人基礎力を育む心の教育の充実。	昨年度の反省に基づく改良を加え,長距離ウォークを円滑に実施する。	2学年	長距離ウォークが円滑に実施され,所期の目的を達成する。生徒アンケートの結果で満足度を調査する。A:90%以上が満足。B:80%以上が満足。C:Bに満たない。 昨年度 アンケート結果80%	11月に学校評価アンケートを実施予定である。		生徒の帰校時間も改善され,11月の学校評価アンケートでは,86%の生徒が充実していたと解答している。	B	
		海外研修が円滑に実施されるよう,事前の準備を行う。	3学年	海外研修が円滑に実施され,所期の目的を達成するよう,事前準備を充実させる。生徒アンケートの結果で満足度を調査する。A:90%以上が満足。B:80%以上が満足。C:Bに満たない。 昨年度 アンケート結果80%	大安寺プロジェクトを中心に海外研修についての内容を進め,必要書類は生徒本人が自ら手続きをして準備できている。異学年交流の「教えて先輩」では,共通の悩み等が共有できとても有意義であった。3学期にアンケートを実施予定である。		海外研修が終わらないと最終的なものは言えないが,11月の学校評価アンケートでは約81%が満足の結果となった。海外研修に対して使える時間が限られていることと,海外研修に不安を持つ生徒が少なくはない状況からすると,これで十分というレベルはかなりハードルが高いと思われる。	B	
		自らのよさを発揮できる活動への参加を通して,自己評価を高める。	1学年 2学年 3学年 4学年	ボランティア,各種検定等,自らのよさを活かせる校外での活動への積極的な参加を促す。A:70%以上の生徒が参加。B:50%以上の生徒が参加。C:Bに満たない。	12月には清掃ボランティアが予定されている。今後調査を実施し,その後評価する		英検171名,数研33名,漢検81名,N研47名で延べ332名が積極的に受験した。また,大安仁の日には多くの生徒がゴミ拾いを行っていた。4学年は全員が「羽ばたけ事業」に参加し,それぞれの企画で70%以上の生徒が達成感を得たと解答している。	B	B

平成25年度 岡山大安寺中等教育学校 学校評価書・別紙(最終)

項目番号	学校経営重点目標	具体的方策	担当部署	評価指標・評価基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		関係者評価
					達成状況	評価	達成状況	評価	
		部活動を推進し、先輩後輩などの良好な人間関係の構築を目指し、積極的かつ自主的に行動できる人材の育成に努める。	生徒課	<p>積極的・自主的で活発な活動ができ、技能・能力を向上させ、多くの部活動が県以上の大会やコンクールに出場できる。 A：12種以上。B：6種～11種。 C：Bに満たない。</p> <p>昨年度 11の部活動が県以上の大会等に出場。</p>	<p>運動部・文化部とも生徒はいきいきと活動している。部活動に入っていない生徒も日々の学習や習い事で自分を高めている。 夏(前期課程)：6の部活動が県大会へ出場、囲碁将棋部は全国大会へ出場 夏(後期課程)：3の部活動(囲碁将棋・陸上競技・フェンシング)が全国大会へ出場</p>	B	<p>運動部文化部共に意欲的に活動し、成績も上げている。後期課程では陸上の中国・全国大会・メディアの全国大会・フェンシングの中国・全国大会出場。前期課程ではフェンシングの全国大会入賞・サイエンスの中国・全国大会出場など。前期の県大会出場は陸上・ソフテ・フェン・バスケ・柔道・剣道・囲碁・サイエンス・メディアの各部活動および水泳・硬テであった。</p>	B	
3	各期にふさわしい進路意識の高揚と学力向上の推進。	4年生の3教科で学力を充実させ、結果として外部模試の偏差値を上げる。	進路指導課	<p>各回の外部模試で偏差値70以上 A：30人以上。B：20人以上。 C：Bに満たない。</p>	7月の全国模試では52名であった。	A	11月の全国模試では47名であった。7月、11月両方の外部模試において、目標の数値を上回った。	A	A
		Dプロを通じて、自分の進路や職業を考えさせる。	進路指導課 1年生 2年生 3年生 4年生	<p>生徒の評価アンケートで「進路意識が高揚した」と回答する割合。A：90%以上 B：80%以上 C：Bに満たない。</p> <p>昨年度 アンケート結果(全体)73%</p>	11月に学校評価アンケートを実施予定である。		<p>学校評価アンケートの結果は、生徒全体で肯定的回答の割合が80%であり、昨年より7ポイント増加したものの目標には至らなかった。学年別に見ると、1年から85・74・76・85%と1年生と4年生で高い評価がみられた。</p>	B	
4	学習意欲向上につながる授業改善の推進。	授業における図書室利用を増やすよう努める。	図書課	<p>A：クラス平均10回以上の利用がある。 B：クラス平均5回以上の利用がある。 C：Bに満たない。</p> <p>昨年度 クラス平均9回</p>	9月末までに2.9回となっている。10月以降の利用予約が多く入っており、5回以上の達成は可能である。さらに10回に向けて、教科等に働きかける。	B	<p>クラス平均で7.25回の授業利用があった。昨年より平均は減少したが、利用コマ数の合計は増えており、バッティングにより物理的に難しい時期もあった。</p>	B	B
		生徒の主体的な思考力・表現力を育てるための授業改善を図る。	総務課	<p>学校評価アンケートで、生徒が、授業で「考えさせるような」工夫をしている先生が多いと回答する割合。A：90%以上。B：80%以上。C：Bに満たない。</p>	11月に学校評価アンケートを実施予定である。		<p>学校評価アンケートの結果は、生徒全体で肯定的回答の割合が86%であり、昨年より若干増加したが目標には至らなかった。学年別に見ると、1年から91・82・84・86%と1年生では目標を上回っており、2年生から学年に伴って上昇傾向が見られる。</p>	B	

平成25年度 岡山大安寺中等教育学校 学校評価書・別紙(最終)

項目 番号	学校経営重点目標	具体的方策	担当部署	評価指標・評価基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		関係者 評価
					達成状況	評価	達成状況	評価	
5	円滑な学校運営体制の構築と業務の効率化による教員の負担軽減。	授業公開を含む研修の機会を確保し、教員の授業力向上を図る。	総務課	<p>昨年度 アンケート結果 84%</p> <p>年間1回以上授業を公開する教員の数。A：全員が1回以上実施。B：20人以上で実施。C：19人以下。</p>	前期課程はほぼ全員が授業公開を実施できたが後期課程については不十分である。	B	前期課程全員(21名)は実施できたが、後期課程については2名のみの実施であった。高校との連携を図り、相互の授業公開を行うべきであった。	B	B
		保護者が来校する機会を設定し、通信やHP等を通じて情報の提供と共有を推進する。	教務課 1学年 2学年 3学年 4学年	<p>学校評価アンケートで、保護者が、学校や学年の具体的な活動について情報提供がなされていると回答する割合。A：90%以上。B：80%以上。C：Bに満たない。</p> <p>昨年度 アンケート結果 88%</p>	4月と10月に授業参観日を設定し、参観後の懇談を通じて情報の公開と共有に努めている。11月に学校評価アンケートを実施予定である。		学校評価アンケートの結果は、全体では84%の保護者が情報提供がなされていると回答しており、おおむね満足できる状況である。	B	
		学校運営組織が、実態に合い、効率的に運営できるものにする。	教務課	<p>学校評価アンケートで、教員が、学校運営組織は適切であると回答する割合。A：90%以上。B：80%以上。C：Bに満たない。</p> <p>昨年度 アンケート結果 88%</p>	11月に学校評価アンケートを実施予定である。		学校評価アンケートの結果は教職員の肯定意見が79%にとどまっている。見直しすべき点を精査し、次年度につなげたい。	C	
		学校運営組織が、実態に合い、効率的に運営できるものにする。	教務課	各課・室・学年で業務の効率化や精選に関する目標を設定し、実行する。学校評価アンケート教職員用新設項目でA：90%以上。B：70%以上。C：Bに満たない。	11月に学校評価アンケートを実施予定である。		業務の効率化や精選については肯定意見が33%とかなり低い。継続的な改善が必要である。	C	
		前期課程・後期課程・高校が協力分担して業務の運営に当たり、スムーズな中等教育学校への移行を推進する。	教務課	各課・室内の業務を見直し、前期・後期・高校が一体となって業務を遂行し、学校評価アンケート新設項目で「分担・協力が適切に行われている」と回答する割合。A：80%以上。B：50%以上。C：Bに満たない。	協力分担についてはおおむね満足できる状況であると考えられるが、業務量の多さもあり、効率性については課題を残している。11月に学校評価アンケートを実施予定である。		分担・協力についての肯定意見は61%であり、前期・後期・高校間における情報共有や連携をさらに図っていく必要がある。	B	